教育旅行レポート

〝非日常の場〟に身を置き

神奈川県立神奈川総合高校
長野県松川町3泊4日 19年9月27～30日実施

大川充教諭

1995年に神奈川県立で初となる「単位制による全日制・普通科」の高等学校として横浜市神奈川区に開校し、当初から「個性の伸長」「国際社会で活躍する人材の育成」を目標に掲げる。県からグローバル教育研究推進校に指定され、個性化コース、国際文化コースを設置するなど、単位制高校のパイオニア校としても名高い。授業は、普通科の科目に加え、専門科目や学校設定科目から選択できる。他校のような校則はなく、生徒主体で各自の時間割りの作成や、行事の企画、運営などを行っている。2021年には、舞台芸術科（仮称）が新設される予定だ。

研修旅行以外にも「海外パートナー校交流」として米、英、西、仏、独、韓、中の7カ国の学校と交流事業に取り組み、訪問、受け入れをしている。

研修旅行は、「テーマを持って事前研修を行い、そのテーマに沿った課題を解決するために現地での調査、体験などを行う」ことを目的に実施。①農業体験（長野県松川町、山形県高畠町）②農業体験と世界遺産の旅（北海道津別町）③歴史と文学の旅（京都府、奈良県）④自然観察（鹿児島県屋久島町）⑤異文化体験の旅（台湾）―の五つのプログラムから、興味や関心を持ったものを選択できる。

中でも、「家族や地域とのつながりなど、人として生きるということを全てを学べる」と評価されているのが「松川研修旅行」だ。19年度の研修旅行は、9月27～30日の3泊4日で実施した。

研修旅行を担当する大川充教諭は狙いについて、「家族との暮らしや農業体験を通じて、農業（果樹）を基盤とした地域社会のあり方、人と自然の関わり方を生徒がどう考えられるか」と話す。

研修前には、自己紹介冊子や手紙、写真のほか、アレルギーなど健康面に関する情報を受け入れ先の家族に送付し、打ち合わせを細部まで実施。現地の手配は、南信州観光公社が対応した。

プログラムは、果樹栽培など農業の基本知識や、果実の出荷までの過程を学ぶほか、農業への苦労ややりがいを肌で感じられる内容が組まれた。

研修旅行では入村式後、宿泊先の農家へ行き、農作業を中心に体験をした。農作業のほか、JA統合選果場「もなりん」で果物の選別や出荷の見学、ボランティアから歴史や名所案内を聞きながらの町内観光、町長をはじめ町内の人たちとの合同夕食会などが行われた。

このほか、民泊先の農家ではリンゴの木の葉摘みや球回し、リンゴ、ナシ、ブドウなど果実の収穫から選別、出荷のほか、雑草取り、穴掘り、ラベル貼り、道の駅での商品陳列まで、家族の一員として体験した。料理を本格的に伝授する家庭もあり、帰宅後には家族が料理を絶賛するというエピソードも生まれた。農業体験を通じて、農業のおもしろさと苦労の両面を知り、自然とともに生きることの素晴らしさを学んだ。

研修後の生徒からは「スーパーや八百屋で並ぶ果物を見て、出荷までの過程、苦労を思い返すようになった」「果物の勉強はもちろん、食の大切さを学んだ」という声が挙がった。農業や果樹栽培など、日ごろ学べないことを学び、体験することで、野菜、果物への愛情が湧き、食に対する考え方が変わった生徒たち。また、人の温かさに触れて農家の人たちに感謝をするなど、心豊かな生徒へと成長した。

成果について大川教諭は「学校は横浜の中心地、まさに都会にある。その中で学び、生活する生徒が、自然豊かで人情味ある町でひと時を過ごした。一番は、生徒の顔がとても穏やかで生き生きとした表情に変わったことだ」と強調した。

若者の果物離れや後継者問題、地球の温暖化など異常気象による農産物への影響など、農家の現状を学んだ松川研修旅行。大川教諭は次のように総括する。

「こんなに濃い4日間はなかなか経験できない。これからの日本の農業や環境問題、そして松川町のこれからなど、生徒たちは他人事ではないと感じたは切ずだ。感じた課題や問題を自分たちのこととして、将来問題解決してくれるよう望む」。

今後の研修旅行については、「昨今は、国際教育の推進が求められ、海外志向の教育旅行が主流となっている。しかし、日本人として自身が生まれ育った日本のことを理解することも国際社会で活躍する上で大切だ。国際理解と並行して、日本の伝統や文化を学ぶ機会を絶やさず推進することこそが、理想の教育旅行のあり方ではないだろうか。そして、何よりも、人と自然の共生、人のつながりが全ての基本としてあるべきだ」と語った。

梨の収穫作業

雑草取りの作業

農家の家族と一緒に料理

おやつタイム

東洋大学附属姫路高校
東北方面3泊4日 19年10月22～25日実施

黒河潤二教諭

兵庫県姫路市の東洋大学附属姫路高等学校（大森茂樹校長）は、1963年に開校、野球の強豪校などとして全国的にも知られる存在だ。2014年には新たに附属中学校を開校し、中高一貫コースをスタート。「考える、学ぶ。」を教育理念に掲げ、グローバル人材の育成に取り組んでいる。中でも独自の教育プログラム「キャリア・フロンティア」では、「神戸・姫路研究」「バイオ・ナノ課題研究」といった多様な分野についての体験・探究活動や著名人による講習会などを組み合わせたアクティブ・ラーニング・プログラムを展開。コミュニケーション能力や問題発見能力、課題解決能力の育成を図っている。

震災学習とは人生学習
自らの生き方見つめ直す

このキャリア・フロンティアの中で長期的に取り組むのが、「防災・震災学習」だ。これは「人の痛みが分かる生徒を育てる」との目標に基づくもので、中学1年での阪神・淡路大震災に関するドキュメント・ドラマの視聴に始まり、被害の実態を学んだり、防災や災害ボランティアについてのワークショップを行ったりするなど、5カ年にわたり学びを積み上げる。

その集大成となるのが、高校2年で東日本大震災の被災地を訪れる東北修学旅行だ。中高一貫コース主任の黒河潤二教諭によると、東北修学旅行は、同コースの開設準備段階から計画するほど重要視してきたという。

昨年の東北修学旅行は10月22～25日に3泊4日で行った。1日目は飛行機で仙台空港に到着後、東日本大震災で甚大な被害を受けた南三陸町に入り、ボランティアガイドの案内で町内の浸水エリアや高台にありながら1階まで浸水した旧戸倉中学校を訪問。続いて、地元素材を生かしたモノづくりを行う「入谷YES工房」で被災者から震災講話を聞いた後、町内に点在する復興途上の店舗を訪れて、被災時の状況や店舗開設に至るまでの経緯、現在の課題などを聞きとる「てんてんマップツアー」も実施した。

2日目は同町内での追悼セレモニーの後、岩手県で三陸鉄道に乗車し被災地の様子を見ながら、震災当日の様子などについてボランティアガイドから話を聞いた。3日目は中尊寺の見学やわんこそば大会などの後、秋田県内に宿泊。4日目は青森県内でねぶたの見学やリンゴのもぎ取りなどを行った。

震災講話では、生徒たちと同じ高校2年生の時に被災した20代の講師から、地震、津波に遭い寒空の中を耐えた壮絶な被災経験や、地元に就職、その後独立する中で、どのような思いを持って復興に携わり、さらに今後どう復興に関わっていくかという思いなどを聞いた。「被災したからこそたくさんの人と出会え、それが今の自分と、これからの南三陸町と自分の未来を作っていると前向きに話す姿は、生徒たちがこれからの生き方を考えていく良いきっかけになったのではないか」と黒河教諭は話す。

南三陸町での宿泊先、ホテル観洋では、防災士の資格を持つ同館の営業担当者から防災講話を聞いたほか、地元の小・中・高校生と共に「避難生活で必要なものは」「避難してきた外国人を支援するのに必要なものは」をテーマにしたワークショップを行った。その際に、地元の小学6年生が南三陸町と自分にとっての震災の意味について発表し、生徒たちは被災の記憶がない世代にも復興への思いがしっかりと受け継がれていることを強く感じたという。

事後学習としてまとめた文集では、「防災とは未来の明るさ。震災学習とは人生学習。防災袋に何を入れたらよいかなどよりももっと大事なこと識、確認することだと思った。震災学習で学んだ『率先避難』の教えを第一に、自分の命を守れる人になりたい」などの感想があった。この他、震災学習の中で聞いた「目の前のことを頑張る。頑張って進めば先が見えるようになる」との言葉から「頑張る」を感想文のタイトルにした生徒は、想定外の困難な状況下でも前を向いて頑張っている人々の姿を紹介し、「『頑張っているからもっと頑張れる』と思えることが復興の近道ではないか」と締めくくった。

黒河教諭は「生徒の感想の中に、『すべて過去があって今がある。描くのは過去の暗さではなく未来の明るさ。震災学習とは人生学習。防災袋に何を入れたらよいかなどよりももっと大事なこと識、確認することだと思をいろいろな方のお話から学んだ』というものがあった。このように震災学習とは、被災者の体験や思い、生き方を知ることで自分の生き方を見つめ直す学習であり、進学校では最良の進路指導になりうる」と力を込める。

同校では来年以降も震災学習を核とした東北修学旅行を実施する予定。東日本大震災から10年近くたってもなお復興途上にある被災地で、地元の復興に向けて生きる人たちの生の声、姿から、より多くの生き方を学べるよう震災学習プログラムのブラッシュアップを図っていく考えだ。

高校生で被災した人の震災講話に聞き入る生徒たち

旧戸倉中学校でガイドから説明を受ける

地元小中高校生も参加しての防災ワークショップ

ワークショップ前に、地元小学生の発表を聞いた

スマホ・PCでも読める！観光経済新聞

観光経済ドットコム kankokeizai.com

観光業・旅行業・宿泊業に関連した最新ニュースを
11のカテゴリー※に分類して、1日平均約20の記事配信をしています。

※観光行政/トラベル/旅館・ホテル/ビジネス/地域観光/
インバウンド/商品・トレンド/インタビュー/コラム/注目トピックス/耳より情報　の11区分

電子版アプリ 540円/月
ニュースメディアスタンド
毎週発行の最新号に加えて、2010年1月1日号以降のバックナンバー・過去記事を全てお読みいただくことができます！

メルマガ 1日1回配信（AM7時）
前日7時～当日6:59までに観光経済ドットコム（kankokeizai.com）で配信された最新のニュースをヘッドライン形式でお届けします！

Facebook
観光経済ドットコム（kankokeizai.com）で配信された最新のニュースをウェブでの配信と同時に投稿しています！

Twitter
観光経済ドットコム（kankokeizai.com）で配信された最新のニュースをウェブでの配信と同時に投稿しています！

Instagram
取材先での写真など、全国各地の旬な情報をお届けしています！

Youtube
観光・旅行業界のトレンドや旅館・ホテルの最新情報をお届けします！
ご当地キャラや各地のミス○○のPR動画などをアップしています！

登録・フォロー　お待ちしています！